

研成義塾を創設。勤勉で誠実な教養ある人物を輩出した教育者

井口 喜源治(いぐち きげんじ)

穂高等々力町 出身

〈井口喜源治が活躍した時代〉 1870〈明治3〉年～1938〈昭和13〉年 享年69歳

明治							大正	昭和							
3	9	22	23	25	26	27	31	34	10	3	4	5	6	7	13
穂高等々力町に誕生	研成学校入学。相馬愛蔵と同級生		松本尋常高等小学校(現開智小学校)に赴任	家庭事情により明治法律学校中退。上高井高等小学校小布施分校に赴任	結婚。東穂高等小学校に赴任。相馬愛蔵の設立した東穂高禁酒会に入会し活躍	禁酒会を中心に芸妓置屋設置反対運動を行う	立	校内風紀の乱れを指摘し、同僚の排斥にあい、豊科小学校に転任するが、退職し、相馬愛蔵の勧めもあり、白井喜代、相馬安兵衛らの協力を得て「研成義塾」を創立		東穂高村三枚橋に新校舎建設。正式認可される	長野師範学校訓導、教生達を連れて来塾	「荻原守衛君小伝」を書く。	研成義塾創立三十年記念式を行う。延べ生徒数七百数十名、式典参加者約八百名という盛況ぶり。	有明小、芳川小、島内小、高家小などで講演	逝去 研成義塾廃校 脳溢血で倒れる

内村鑑三を感激させた研成義塾

学識の深さと巧みな指導ぶりは人々を感服させた。科目では小学校から普通の小学校にない英語と漢文を教(略)えた。渡米に必要な英語が学べるというので入学した青年たちもいた。やがてそれらの義塾卒業生たちが渡米して「穂高倶楽部」をつくって活躍するが、この卒業生に手紙を送ってたえず激励をしたのが師井口だった。(略)生徒が退塾してもその生涯のよき相談相手となって、感化を永遠に続けようとしたのである。(略)試験を行わず、点数で生徒をふるいわけなかった。(略)井口は「えらい人になれ。」とはいわなかった。「学者になれ」とか「成功者になれ」ともいわず、「何になろうともその前に教養あるよい人になれ。」とか「人のためになれる人になれ。」と教えた。35年間で送り出した卒業生は700人。生徒は小学校と現在の中学、高校にあたる補習科と幅広く教えた。

「穂高ものがたり」より



心の優れた人になれ。
人のためになれる人になれ



相馬愛蔵

相馬愛蔵は、1891年(明治24)年、地域の青年たちを集め東穂高禁酒会という生活浄化団体を結成。井口喜源治は、相馬の有力なコンビとして活動を共にした。穂高禁酒会は、その後1894(明治27)年の芸妓置屋設置の反対運動を展開したが、1897(明治30)年に設置許可となり運動は敗北した。同僚が校内へ芸者を入れて騒いだ事実を井口が宿直日誌に記したこともあり、当時の腐敗した教員らによって、井口の排斥運動がおこった。「我々が考えるのに、ただ豊科、穂高といわず天下に君を迎え入れる学校はおそらくあるまい。君を入れることのできる学校—それはただひとつ、君自身の学校だ。我々はどこまでも援助する。」こう述べた相馬らによって芸妓置屋設置反対運動や当時の学校教育のゆきづまりを打開するため、新しい形の穂高浄化運動の場として生まれたのがこの私塾だった。1898(明治31)年、矢原、白金地区の30名の子どもたちが通っていた学校を退学し、国家主義教育の支配の及ばぬ研成義塾に通うことになった。1901(明治34)年内村鑑三を招き研成義塾で講義。その時に内村が提唱していた腐敗した社会の救済と改良のための組織「理想団」の安筑支部が相馬、井口らによって結成された。このように、研成義塾の創設は理想郷づくりの運動であり、武者小路実篤らの「新しき村1918〜」と比肩され得る。



内村鑑三

(略)精神的自由的なる教育を施さんと欲するものがこの若き先生の目的である。(略)安曇の研成義塾は小なりといえども、全く平民と日本人との力によりて成りし学校である。余小にして大なるこの義塾を信州の地において発見して、心ひそかに信州万才を絶叫せざるを得なかった。1898(明治31)年「万朝報」(入信日記)より

☆井口喜源治が育てた人たち☆



清沢 洌

この研成義塾には先生が一人しかいない。七つの学年にわたる生徒たちを一人で教えているのである。(略)地理も歴史も代数も幾何も英語も漢文も、すべてこの先生一人で受け持たなくてはならぬ。この先生が何でも知っているのには驚きを禁じえなかった。(略)僕は当時の渡米熱の波に乗ってアメリカに行ったが、自ら固く決心して、神に近い生活をなし得る百姓になるか、それともキリスト教の伝道師になるかの一つを目がけたのであった。

1890(明治23)年～1945(昭和20)年 政治評論家。昭和初期の自由主義転落論争で自由主義擁護の旗手。太平洋戦争中、戦後を見越し日本外交史研究所を設立。外交史辞典を編纂。



東條 英樹

(略)私も不肖ながら一生を貧しくとも清く生き抜こうと深く心に期したものです。(略)わが井口先生は足一歩も郷里を出でず、著書もないので、広くは人に知られず世を去られました。その高い徳行と強い感化力はやがて後世に認められ、また驚かすに至るであろうことを疑いません。

1888(明治21)年～1970(昭和45)年 ワシントン靴店創業者。研成義塾で3年学び渡米。世界大恐慌を機に帰国、靴専門店の経営を始め全国に支店を広げた。人情に厚い人柄を慕われ、人一倍故郷を愛し、工場だけでなく支店で働く同郷者も多かった。

“ワシントン靴店の経営理念は「LOVE PEOPLE」
「人に尽くす」という気持ちが最も素直に出せるのは、互いに対等感を持って、大事にしあう時です。そついで心でお客さまに接すれば、仕事を越えた素晴らしい出逢いが得られるのです。
HPより

株式会社ワシントン靴店 代表取締役 東條英樹 本社東京都港区

参考文献等

- 「がいどぶっく・安曇野の里『穂高ものがたり』 中島博昭 1977 出版安曇野
- 「探訪・安曇野—その旅と歴史ロマン」 中島博昭 1988 郷土出版社
- 「常念山麓」 中島博昭 1998 出版安曇野
- 「明日を築いた人々 井口喜源治 真教育をめざして」 宇津木元 信濃教育出版部
- 「井口喜源治」井口喜源治記念館 1978
- HP ワシントン靴店 <http://www.washington-shoe.co.jp/company/management.html>

史跡等：井口喜源治記念館 〒399-8303 長野県安曇野市穂高 4312 0263-82-5570